

交通事情からみた わたしたちのまち 東京のすがた

現在のTOKYO

わたしたちのまち東京が、今日のような発展を遂げたのは、鉄道網の整備とともに、世界の大都市と同様、道路の整備によって自動車の持つ魅力を最大限に利用してきたためです。しかし、人やものが大量に集積する東京では、自動車の集中を招き、その効用をうち消すような問題が生じてきました。

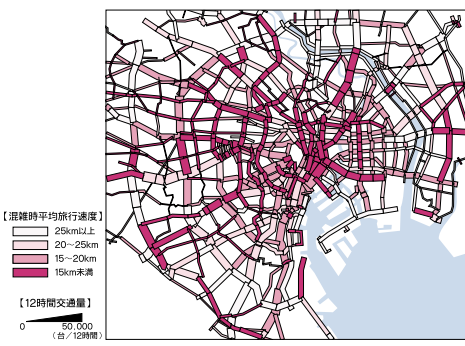
道路容量以上に自動車の集中する交通渋滞が多くの箇所が発生し、経済活動に大きな影響を与えています。また、自動車利用に伴う排出ガスや騒音などが生活環境に大きな影響を及ぼしているのです。

例えば

交通渋滞に伴う東京の経済損失は年間4兆9千億円にも上ります。また、交通事故の負傷者数増加に対し、知事から緊急アピールも出されました。

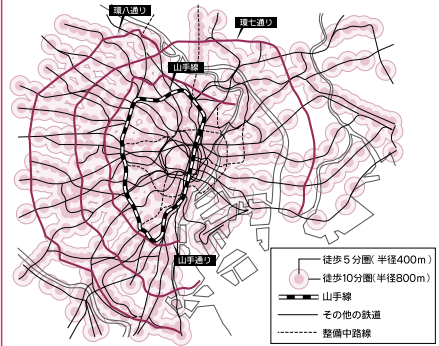
窒素酸化物の排出状況は自動車からの排出が全体の2/3を占めています。二酸化炭素も東京では運輸部門からの排出が多く、全体の1/3を占めその7割が自動車によるものなのです。

●都心へ向かう幹線道路はいずれも混雑している
12時間交通量と混雑時平均旅行速度



出典：建設省道路交通センサス（平成9年）

●都心では駅から徒歩5分圏の範囲が広く分布している
山手線地域内の徒歩5分・10分圏分布図



出典：東京都政策報道室



自動車に依存した社会

交通渋滞による影響

経済損失

走行速度低下による経済損失は年間4兆9千億円になります。

交通事故

発生件数は毎年増加しており、負傷者数も増加しています。

都市環境

窒素酸化物や浮遊粒子状物質により大気汚染が進んでいます。

地球環境

二酸化炭素の排出による温暖化が進んでいます。



どうすればいいの？

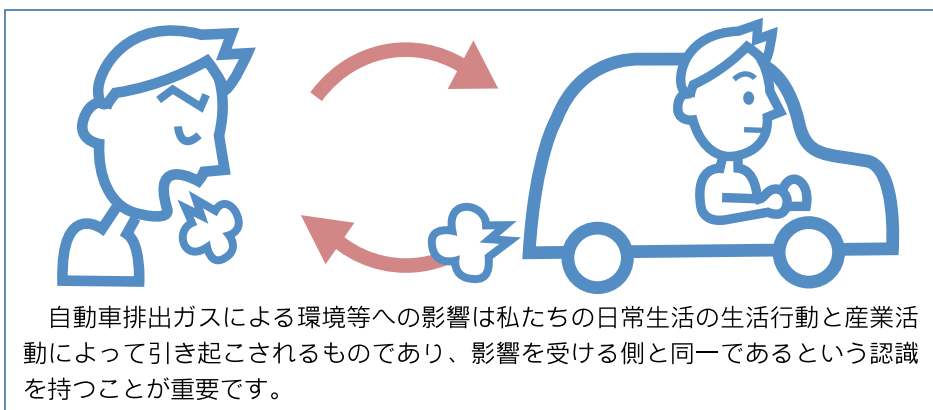
TDM東京行動プランの基本的考え方

これからのTOKYO

このような交通渋滞による経済損失や自動車交通に起因する都市環境及び地球環境への影響を改善していくことは、私たちに課せられた大きな課題です。

これまで道路整備や公共交通機関整備・自動車公害対策などいろいろな施策が実施されてきましたが、自動車交通需要の増大等により、交通渋滞や大気汚染など依然厳しい状態が続いています。いままでの施策とともに、TDMによる取組を私たちが力を合わせて実行することが必要になっているのです。

このため、東京都は平成12年2月にTDM(交通需要マネジメント)東京行動プランを策定しました。



目標

このプランでは 施策の推進のための「行動の牽引目標」として、交通改善目標値を設定しています。

混雑時平均旅行速度

現在(東京都区部) **18.5km/h**

平成15年までには **20km/h以上**

平成22年までには **25km/h以上**

にすることを目指します。

施策

目標を達成するために、私たちそれぞれが何をすればよいのか、TDMの視点から都民・事業者のみなさんへの取組を提案しています。

その中でも行政と都民がともに取り組む施策として、特に重要と考えられる9つの施策を重点施策と位置づけました

●9つの重点施策について次に説明します。(中面につづく)

TDM東京行動プラン

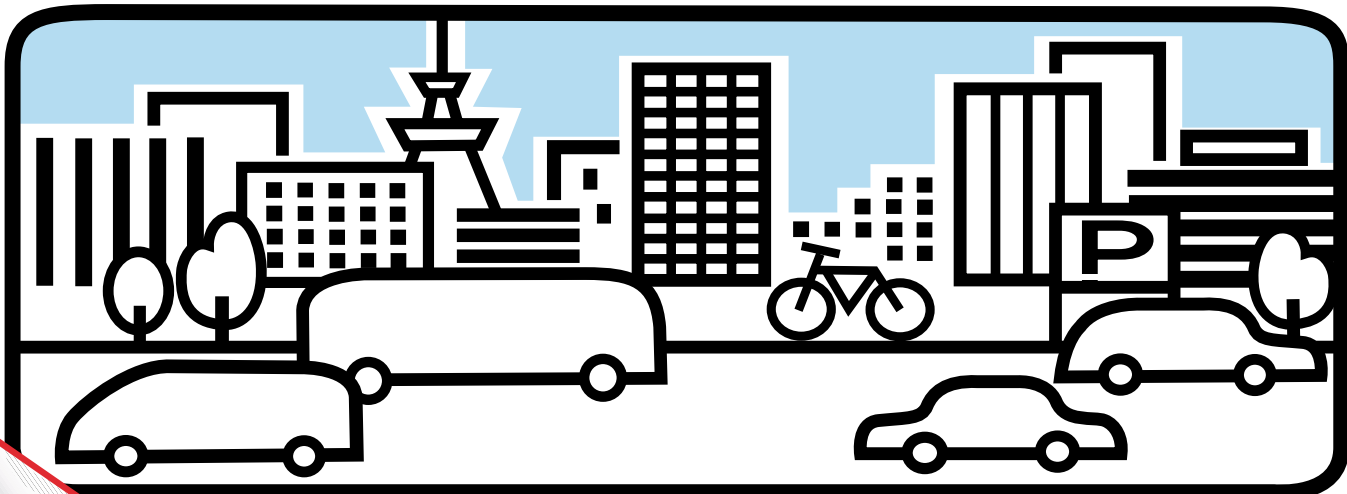
自動車に過度に依存した社会の見直し

都市交通システムの総合的な整備

都民・事業者の行動様式の変換と住民参加のしくみづくり

行動の牽引目標としての交通改善目標の設定

円滑な都市交通の新たな展開



ここを
開けてね